

1. コラム「論点提起」：生成 AI のイノベーションについていけるや如何

コロナ禍が開け、いよいよコロナ禍後に向けた新たなステージが始まろうとしている。2021 年度までの 3 年間のコロナ関連予算の執行済み額は 76.5 兆円。2022 年度のコロナ対策予備費 5 兆円。その他諸々総額 100 兆円余。膨大な国費投入の成果が問われるのはこれからである。

参考：コロナ対策、国費 102 兆円で論戦 岸田首相は効果力説、再検証に否定的 2023 年 03 月 03 日

JIJI.COM <https://www.jiji.com/jc/article?k=2023030200968&g=pol>

コロナ禍の中、2022 年 2 月、ウクライナ戦争が勃発し、それを契機として、エネルギー問題ひいては地球環境問題、グローバルサプライチェーン問題等、さらには地政学リスクを惹起し、第二次世界大戦後の枠組みが溶融し、まさに「新たな戦前」の状況が現出するに至っている。

こうした状況の中、さらに、2022 年 7 月、画像生成 AI が登場し、11 月にはチャットボット型 AI 「Chat GPT」が登場し、世界が沸き立ち、あっという間に検索機能に取り入れられるなど、「AI」が身近になってきている。これら生成 AI の進歩・精緻化のスピードは凄まじく、あらゆる分野における仕組みを一変させる可能性を秘め、産業革命に匹敵するとさえ云われている。

参考：生成 AI は問い合わせる。「知性」とは何か？産業革命に匹敵するインパクトが、人と AI のハイブリッド型社会をもたらす 2023.03.08 TELESCOPE magazine

前編 https://www.tel.co.jp/museum/magazine/report/202303_01/

後編 https://www.tel.co.jp/museum/magazine/report/202303_01/02.html

このようなテクノロジーによる産業・社会の仕組みが一変（イノベーション）しようとしている時、日本は当事者として土俵に乗れるのか/乗っていられるのか、変化のスピードについていけるのか。そもそも、危機感をもっているのか。とにかく、リスクテイク/リスクマネジメントをしながら、投資をし続けるしかない。これまでのように、逡巡し、何もせず、「ゆでガエル」になるようでは、今以上に日本は衰退するしかない。本当に、「世界の古都」になってしまう。

地政学リスクをマネジメントし、レジリエント（適応力）な国として世界での存在感を維持するのは国主導でなされるべきであるが、技術主導の産業・社会変革（イノベーション）への対応は民主導で対応するのが望ましい。国の補助金政策等にいつまでも頼っていては、事前の協議・書類づくり・手続きプロセスを経る中で、技術開発・導入投資は尖ったものにはならなくなるし、年度縛り補助金ではスピードも上がらない。企業自身が自らリスクを取り、自らの利益や内部留保（2021 年度 516 兆円）から、積極的に投資をしなければ生き残るのは難しい。金融機関も企業ファイナンスではなく、そうした投資型 Project ファイナンスを目利きして欲しい。

個人（2022 年 12 月末 家計部門の資産 2,023 兆円、内現金・預金 1,116 兆円）も、貯めて相続するだけでなく、企業に投資したり、ベンチャー等の Project に投資型クラウドファンディングしたり、消費に回し市場を拡大し、イノベーション興しに貢献することをもっと考えて欲しい。

地政学リスクを超え、企業・個人として、イノベーショナルな流れに身を投じられるか如何。